



特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

発達障害の生徒に分かりやすい授業づくり

- 登場人物の言動や心情を捉えやすくする工夫 -

実践のポイント

「分かりやすい授業づくり」の基本を学部で共通理解し、個に応じた指導・支援の工夫により、学習の定着と自己肯定感を高めることを目標としています。

国語科の学習に苦手意識があったり、初めてのものに強い抵抗感を示したりする生徒への実践です。読むこと書くことについて、生徒それぞれの得意な面を意図的に取り入れています。

学習の見通しを持ちやすくするために、前時までの学習内容を掲示したり活動の流れを提示したりしています。自主的に学習に取り組むために、段階別の音読カードや気持ちを表す言葉の例、感想文の雛形を示すことなどによって、生徒が困って活動を中断することなく学習に取り組み、感じたことを表現することができるようになっています。

授業実践について 教材 『蓬萊の玉の枝～「竹取物語」から』

○題材設定について

「かぐや姫」の物語として馴染みがあり、親近感をもちやすい教材であり、現代文とは異なる古文の独特のリズムを楽しみながら音読に取り組みます。翁の親心、姫に好意を示す貴公子たちや帝とのやりとりなど、当時の人々のものの見方や考え方について現代と比べながら考えることに適した古典教材です。

○指導計画

「竹取物語」のあらすじを理解し、「くらもちの皇子」をはじめとする4人の貴公子の失敗談、翁や帝の言動について、古文や解説文から内容を把握します。登場人物のなかで最も心に残る一人について、現代の生活と通じるところや共感するところを紹介し合い、自身の考えや思いを表現します。

生徒のあらわれ

○音読が好きなAさん

「段階別音読カード（歴史的仮名遣い部分を現代仮名遣いにしたり漢字に読み仮名を振ったり、文節区切りをつけたりするなどして、段階的に読みの難易度別に文章を記載したカード）」を活用し、すらすら読むことができるようになりました。自分から挙手して音読に意欲的に取り組んでいます。

○活動を継続できるようになったBさん

初めてのことや分からないことなどがあると、活動が止まってしまうことがありました。「段階別音読カード」や気持ちを表す言葉の例、感想文の雛形を活用することなどにより、円滑に学習に取り組むことができ、発言も増えてきました。

指導・支援の実際

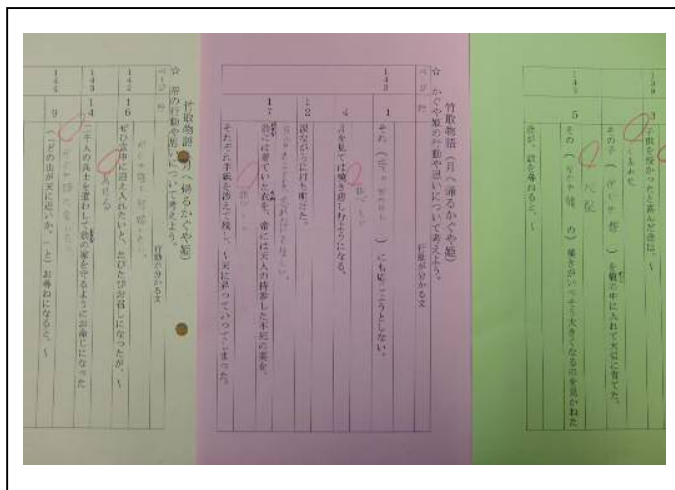
○ ワークシートの活用（資料1）

登場人物一人一人に注目しやすいように、人物ごとにワークシートの記載箇所の色を変えて、板書の提示とリンクさせています。

人物同士がどのような関わりを持って、どのような言動をしているのか、人物、言動、心情が、記載箇所と色分けの工夫によって理解しやすくなっています。

また、本文中のどの表現から、登場人物の心情をそのように捉えたのか、根拠を明らかにして表現できる形式に工夫しています。

さらに、気持ちを表す言葉の例を一覧にして示したり、感想文の雛形を提示したりして、どのように書けばよいのか困ったときには、例示された型に当てはめて書くことができるようになっています。



資料1 板書とリンクさせたワークシート

○ 板書の工夫（資料2）

授業終了時に1時間の内容が見渡せ、本時の学びを確認できるようになっています。

ワークシートとリンクさせて登場人物ごとに色分けし、心情の記述をすることで板書を見れば、登場人物の誰がどのような心情なのか理解しやすい工夫がされています。



資料2 ワークシートとリンクさせた板書

○ 展開の工夫

範読、音読、ワークシートへの書き込み、音読、感想文というように、小さなまとまりを組み合わせ、授業を構成し、活動に変化を持たせています。それぞれの小さなまとまりの活動に、段階別音読カードを活用することなどで、自分で取り組める工夫がされており、達成感を味わいつつ次の活動に意欲的に取り組めるようになっています。導入は、毎回音読を取り入れることで、見通しと自信を持って取り組むことが可能になると共に、集中し速やかに授業に向かう姿勢づくりにつながっています。

○ 言葉掛けの工夫

優しく、落ち着いた響きによる短い言葉で指示や確認がなされています。ワークシート記入を確認する机間支援時の教師の動作や表情、言葉掛けも生徒の気持ちを安定させる穏やかなものです。

音読や発表時における生徒への賞賛や肯定的な言葉の使い方から、安心感と自己肯定感を高めるための教師の意識的な言葉掛けが感じられます。